

## 計画04 博物館、美術館、図書館

- 1  美術館における休憩スペースを、展示壁面の長さ200mごとに配置した
- 2  地域図書館の開架貸出部門に席貸だけの閲覧室を設け、その座席数をできるだけ多く確保した。
- 3  中規模の美術館における動線計画を、中央ホール型とした。
- 4  日本画を展示する壁面の照度を500lxとし、洋画を展示する壁面の照度を300lxとした。
- 5  図書館の計画において、閲覧機の1人当りの広さは、間口90cm、奥行き60cmとして計画した。
- 6  地域図書館の開架書架スペースは、収容量を300冊/m<sup>2</sup>として計画した。
- 7  公共図書館においてBDS(ブックディテクションシステム)を採用し、利用者の私物を自由に館内に持ち込むことができるようにした。
- 8  図書館の書庫で移動式書架を採用した場合、1㎡当たりの収蔵量は200冊程度である
- 9  東京国立博物館本館(東京都台東区)は、二つの中庭をもつ「日の字型」の平面で、中庭の周囲に展示室を配置している。
- 10  オペラを上演する劇場の計画において、様々なオペラの演目に対応するために、舞台にプロセニウムをもたないオープンステージ形式を採用した。
- 11  開架貸出室における中央部には、見通しを考慮し、低書架を用いた。
- 12  市庁舎において、建築物全体に占める窓口事務部門の床面積の比率は、一般に、10%程度である。
- 13  パノラマ展示とは、室内で観客に広い視野の実景を見るような感覚を与える展示手法のことで、背景に写真・絵画などが使われることが多い。
- 14  収蔵庫の温湿度調整のために外側の躯体とは別に内壁を設けた二重壁構造とし、その中間の空気層を空調することが望ましい。
- 15  市庁舎においては、市民が日常利用するメインエントラス、職員・サービスのエントラスのほかに、議会用のエントラスを考慮する必要がある。
- 16  水戸芸術館(茨城県)は、音楽、演劇、美術のそれぞれに対応した文化施設を、個々の空間の独立性を保ちながら、一体化させている。
- 17  展示室に自然採光を利用する場合、光量不足を補うために、天井に自動点灯装置によるナトリウム灯を設けることが多い。
- 18  美術館の計画において、自然採光を利用した展示室に光量不足を補うための照明として高演色蛍光灯を用いた。
- 19  図書館の計画に当たり、新聞や雑誌などを気軽に読む空間としてレファレンスルームを設け、気軽に立ち寄れるように1階の出入口近くに配置した。
- 20  客席1,600席のコンサートホールの計画において、音響が安定している、靴を入れる形、すなわち直方体の形のシューボックス型を採用した。
- 21  劇場計画において、客席と舞台の一体感を高めるために、プロセニウムをもたない、古代ギリシアを起源としたアダプタブルステージを採用した。
- 22  劇場の搬出入のためのサービスヤードでウィング式(荷台の側面と屋根面を一体として上方に開くことができるもの)の大型トラックが停車するスペースの床から天井までの高さを4.0mとした。
- 23  博物館の保存、修復のための調査・研究部門は、研究対象である収蔵品の移動を最小限に留めるために、調査研究部門と収蔵部門とを隣接して設けた。収蔵部門は、収蔵庫内の保存環境を一定に保つため、前室を設けた。

#### 計画04 博物館、美術館、図書館

- 1 ○ 美術館の1回の鑑賞の限界は、壁面延長で400m程度といわれている。鑑賞は以外に疲れることがあり、休憩スペースは欠かせないもので、展示壁面の長さ200mごとに配置したことは適当である。
- 2 × 地域図書館の開架貸出部門は本の貸し出しが中心であり、座席数より書架スペースを多く確保することが一般的である。
- 3 ○ 中規模の美術館では、利用者の逆戻りや動線が交錯しないよう動線計画を行なうほうが良く、中央ホール型は適している。
- 4 × 展示壁面の照度は、日本画より洋画(油絵)の方を高くする。日本画は150~300lx程度、洋画は300~700lx程度とされる。
- 5 ○ 閲覧机1人当りの最低広さは、間口70~80cm、奥行き45~50cmであり、間口90cm、奥行き60cmは適当な寸法である。
- 6 × 地域図書館の閲覧室は一般的には開架式とし、80~120冊/m<sup>2</sup>程度が収容できるよう計画する。
- 7 ○ 公共図書館において来館者が私物を自由に館内に持ち込めるように、電波や磁気を利用して、貸出手続きが終わっていない図書館の館外への持ち出しを感知するBDSの導入が進んでいる。
- 8 × 図書館の移動式書架(集密書架)の収蔵能力は440~640冊程度である。
- 9 ○ 東京国立博物館本館(東京都台東区)は、二つの中庭をもつ「日の字型」の平面で、中庭の周囲に展示室を配置している。
- 10 × オープンステージは古代ギリシア劇場の形式であり、プロセニウムステージはオペラを契機に誕生したものである。現在も、一般的に、オペラを上演する劇場は、プロセニウムステージとされている。
- 11 ○ 貸出室の中央部に高書架を設けると、全体の見通しがきかなくなるので、低書架とするのが良い。
- 12 ○ 市庁舎において、建築物全体に占める窓口事務部門の床面積の比率は、一般に、10%程度である。
- 13 ○ 無柵放養式展示ともいい従来の檻や柵などの遮蔽物を使用した展示ではなく、生物を直接鑑賞できるようにした展示のこと。背景に写真、絵画が使われることが多い。
- 14 ○ 収蔵庫の温湿度調整のために外側の躯体とは別に内壁を設けた二重壁構造とし、その中間の空気層を空調することが望ましい。
- 15 ○ 市庁舎においては、市民が日常利用するメインエントラス、職員・サービスのエントラスのほかに、議会用のエントラスを考慮する必要がある。
- 16 ○ 水戸芸術館(茨城県)は、音楽、演劇、美術のそれぞれに対応した文化施設を、個々の空間の独立性を保ちながら、一体化させている。
- 17 × 演色性の悪いナトリウム灯は美術館には適さない。
- 18 ○ 伝統的には高窓など側光式や天窓の頂光式で自然光を使うが、人工照明と空調設備の発達で自然光は人工照明の欠陥の補いやしかくひろの補償や気分転換などの心理的役割に変わってきた。
- 19 × レファレンスルームとは利用者が調べ物を行うための参考図書を一括に配置した部屋のこと。いりぐち近くに設けるのはブラウジングコーナーである。
- 20 ○ 正しい。
- 21 × 古代ギリシアを起源とするのはオープンステージ形式である。アプタブルステージとは、舞台と客席をそれぞれ可動型とし内容目的に応じた空間とできる形式。
- 22 × 5m程度必要。
- 23 ○ 正しい。  
公共博物館の展示・教育活動関係部門を保管関係部門の標準面積は、同程度とされている。